

## 地域密着型サービス事業所の自己評価項目（自己評価結果表）

（調査項目の構成）

### I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

### II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を生かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
  - (1) 一人ひとりの尊重
  - (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援
  - (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援
  - (4) 安心と安全を支える支援
  - (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり
  - (1) 居心地のよい環境づくり
  - (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり

### V. サービスの成果

#### ※記入方法

- 管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
- グループホームの場合は、ユニットごとにその管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
- 取り組みの事実を実施している内容、実施していない内容の両面から記入すること。
- 取り組んでいきたい項目に○を記入し、すでに取り組んでいることも含めて、取り組んでいきたい内容を記入すること。
- サービスの成果は取り組みの成果に該当するものを○印で囲むこと。

#### ※項目番号について

- 評価項目は、100項目です。

事業所名 グループホーム 朋楽

ユニット名 \_\_\_\_\_

自己評価実施年月日 平成 19 年 5 月 7 日

記録者氏名 武市幸子

記録年月日 平成 19 年 7 月 6 日

## 自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	○	言葉での直接的な表現はないが、その人らしく暮らすために地域へのかかわりは常に考え、地域へ出て行くようにしている。
2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		支援の方法を考える時に職員には、理念の再確認をして方法を考えてもらっている。
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	○	職員から提案された地域へ出て行く方策を、家族や運営推進会議で説明し、協力してもらうようにしている。
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		百歳体操後の茶話会や、神社での清掃活動等計画し、実行へ向けて準備している。
5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	自治会への行事や、地域の小学校への行事への積極的な参加をしていきたいと考えている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	近所に暮らしている独居の高齢者に浴室を貸し出している。	○	認知症へのより深い理解をしてもらう為の方法を考えている。(茶話会や、簡単な講座形式など)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価や外部評価で改善が必要と思われるところは、その都度改善策を話し合い出来るだけ早く改善するようにしている。		自己評価は全職員にしてもらい、その結果を共有するようにし、よりよいホーム作りを目指している。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で意見が出たものについては、実施の方法について検討し、実施するようにしている。		委員さんから出た、意見を積極的に取り入れ、また職員を運営推進会議に参加させる事で、運営推進会議の意味を理解してもらうようにしている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現状では、本庁職員との交流はほとんどない状態。	○	運営推進会議への本庁職員の参加を呼びかけて行きたい。また、夏祭り等イベントへの参加も同様に呼びかけて行きたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	一人の利用者は地域権利擁護事業や成年後見制度を利用している。職員には利用している入居者さんを例にとって説明している。		他の家族にも今後の家族会や講習会などで内容を説明していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については、資料やマニュアルなどを整備し、職員には積極的に学習するよう呼びかけている。また、外部研修には出来るだけ多くの職員が参加できる様している。	○	毎月何らかの形で虐待の防止に向けた社内研修(ミニミーティング等)を行って行きたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前の説明の時から理念や、ケアの方針を十分に説明し、契約までには何度か利用者、家族との打ち合わせを持って、不安や疑問の解消に努めている。	○  1回の説明だけでは終わらさず、何度も見学や話し合いをし、納得してもらうようにする。
13	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	三ヶ月に一回の家族会や、家族が訪れた時に情報の提供をし、希望や苦情を汲み取るようにしている。また、それらの機会に出てきた意見は職員間で話し合うようにしている。	○  家族の要望が具体的に実現した事を、目に見える形で伝えて行きたい。(毎月の朋楽だよりなど利用)。
14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	三ヶ月に一回家族会を行っている。また、金銭出納帳については、家族が訪れた時に説明し、承認してもらうようにしている。	○  朋楽だよりを家族会時に渡していたのを、毎月発行し一日のトピックスなども含めて報告するようにし、日頃見えない暮らしを伝えている。。
15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情に関する文書を玄関に掲示するとともに、家族が訪れた時など出来るだけ多くの機会を設けている。	○  家族からの意見や不満については、出来るだけわかりやすく説明し、家族会や朋楽だよりを通してすべての家族に伝わるようにしていく。
16	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミニミーティングを出来る限り毎日おこない、運営について意見があればくみ上げるようにしている。	○  職員からの提案については、可能な限り実行に移せるよう慎重に検討している。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	イベントや、利用者個別の要望に応じていくために、その時間帯の増員も含めた対応をしている。	○  利用者の要望に出来るだけ応えていける様、人員配置や職員の意識の統一、スキルアップを図っていく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者への配慮を優先し、出来る限り職場間の異動は少なくしているが、本人のスキルアップの為やむをえず異動をする場合は、馴染みの関係のある利用者への説明を行うようにしている。		必要に応じ異動を行う場合には利用者に説明した上で一ヶ月程度の移行期間を設け異動予定先と混ざった勤務シフトを組むようにしたい。
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19 ○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	行政や、連絡協議会が行う研修に加え、自主的に県外講師を呼び他ホームとの合同研修を企画したり、他ホームへ職員を派遣するなどしている。	○	今後も社内外の研修への参加に加え、自己学習に必要な資料などは整備し、職員にも積極的に学ぶよう声をかけていきたい。
20 ○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度は6回の自主研修を合同で行うよう企画し、また頻繁に連絡を取り合ったり、訪問しあったりしてネットワーク作りを進めている。	○	研修などで知り合ったネットワークを利用してより積極的な人事交流を行っていきたい。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ストレスの具体的な要因を聞いて、職場のストレスを家に持って帰らないよう福利厚生のため契約の喫茶を設け、そこで会社負担でコーヒーやビールを飲めるようにしている。		気分転換が出来る様な他の事業所の職員との交流を考える。また、職員の自己実現の為の目標設定を自ら考え、ストレスを緩和出来る様相談支援を行い、プラス思考で仕事が出来る様にしていく。
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各自の努力や意見は出来るだけ尊重し、意欲を高揚させるための意見交換をするようにしている。		自己実現の為の相談支援をよりきめ細かく行うとともに、もっと相談しやすい体制を取っていく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていることを本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時から、出来るだけ詳しい話を聞き、利用の際は前に利用していたサービスや病院とも連絡を取って情報交換をしている。	○  相談時からより緊密に本人と接触し、意見のくみ上げや本人の様子の観察等をし、支援の具体的な内容について話し合えるようにしていく。
24	○初期に築く家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時から、出来るだけ詳しい話を聞き、利用の際は前に利用していたサービスや病院とも連絡を取って情報交換をしている。	○  本人の要望や困っている事などを理解したうえで、家族とも具体的な要望や、困っている事をより細かく聞き取り家族や本人がより安心して利用できる様にしていく。
25	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族と話し合う中で、出来るだけ詳しい話を聞き、最優先の支援を考えている。	より細かい見極めや、要望の聞き取りによって、初期に安心できるような支援をしていく。
26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家にいるような雰囲気作りを心がけ、本人に合わせた時間の流れや生活を行うようにしている。	決して時間の流れを職員の都合で断ち切ったり、強制したりしないことで今までの生活のリズムを崩さないようにしている。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	会話や家事を一緒にすることで、本人の思いを受け止め、感情の表出も止めることなく受け止めている。	一緒に過ごす中で、何が嫌なのか、不安なのか、楽しいのかなどを職員がしっかりと観察していきより本人らしい生き方を支援していくことによって、学んだり支えあっていく

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人の状態は頻繁に報告し、なぜそうゆう行動や感情の表出になったのかを共に考えて、家族の来訪時には支援に生かしてもらっている。		今までの生活と変わった表情や態度が表れた場合は、家族とも話し合い、過去の生活と考え合わせて一緒に支援していくようにする。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	これまでの生活については把握するように努め、現在の様子から声のかけ方や、行動の受け止め方などを共有し、困惑しないよう努めている。		利用者が混乱したり、症状が進行して行く事をきちんと医学的に説明し、今の状態 r を適切に把握してもらう事によって家族にも安心してもらい、本人とも良好な関係を続けてもらう。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人が来訪した時も、状態を的確に説明し戸惑わないようにし、来訪の意義を話し、再度の来訪をお願いしている。		家族同様、友人や馴染みの人やお店などにも医学的な説明も含めきちんと説明し、戸惑う事のないようにし、馴染みの関係が継続出来るよう支援していく。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	歌やレク、外出等を通じて日頃あまり他利用者に関わらない本人にも活躍の場を作り、関わっているよう努めている。		出来るだけ活躍できる場を作ることによって、一人で孤立したり仲間はずれにならないような支援に取り組んでいく。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現状では定期的な交流が出来ていない。	○	毎月発行している「朋楽だより」や、夏祭りなどイベントの案内の送付を検討する。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> <b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常にやりたいことや行きたい所などを聞き、それを実現するよう努めている。また、生活は出来るだけ制限をしないようにしている。	個人でも行きたい所、やりたいことを実威厳出来る様取り組んでいく
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	機会があるたびに本人や家族からの聞き取りに努め、馴染みの場所の近くに出かけたときには話がひろがるように声をかけるようにしている。	本人の過去の生活圏で一日過ごしてみるなど、積極的に出かけて行って生活ぶりや馴染みのものなどの再把握に努める。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の記録を職員全員が共有し、変化があった時はそれについて話し合うようにしている。	職員全員で共通の支援をすることによって、本人の有する力をより細かく把握するようにする。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ストレスを軽減し、いきいきと生活するための課題とその解決策を職員全員で話し合い、家族や本人の希望も前向きにとらえた計画の作成に努めている。	本人、家族の要望を前向きにとらえ、本人が何を望むのかを、本人の言葉で書いた計画書作りをしていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	出来るだけ短い期間での評価をし、常に適切な支援が出来る様に努めている。また、変化があった時にはその都度話し合っで見直した計画をたてるようにしている。	常に様子を観察し、変化があった時にはそれを評価し、計画の見直しが必要かどうかを話し合い、必要な場合には見直しを行う。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は常に目を通せる所に置き、情報を共有できるようにしている。		日々の様子を中心にする事から、実践、結果気づきを多く記入するようにしていく。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	他事業部門(デイサービスやアートセンター)へ訪れたり、食事会やイベントを合同で行う事で、いろいろな活動への参加を可能にしている。		定期的に交流を行い、本人や家族、他事業所の利用者にも楽しみや、潤いを与えるよう支援していく
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	小学校の障害児学級との交流や、社会福祉協議会のイベントなど、本人の希望にあわせて参加できるようにしている。		より多くの機関と協力し、いろいろな場に出たり、来てもらったりしていく。
41	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の希望や体調に応じて出張理容を利用している。		利用できるサービスを研究し、利用できるものは利用者や家族に提示し、利用の検討をしてもらう。
42	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターが参加する事で、情報交換でき、認知症ケアについて深くディスカッションできる。		運営推進会議だけでなく、日頃のケアについても情報交換や話し合いをしていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		より細かい情報交換を行う事で利用者の状態を把握し、早期退院に向けても職員間で十分に話し合っていく。
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	終末期に向けて指針を早急に作成していく
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		重度化の介護の研修を計画し、職員のスキルアップを図りたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	病院等へ移るときは情報を伝え、支援の内容についてはしっかり把握してもらうようにしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>				
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>				
50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけは状況にあった適切な言葉かけをするよう努めている。また本人の許可なく居室へ入ったりする事のないよう注意している。個人情報には細心の注意をはらって取り扱っている。		プライバシーについてはより慎重に取り扱うよう、職員間でも常に気をつけるようにする。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	選択する場面を増やす事によって希望を表せるように努めている。また言葉だけではなく写真や実物を示すなどの工夫もしている。		より希望が出てくるような声のかけかたや、支援の仕方を職員全員のものとして共有し、それを実行していく。
52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間の制約をなくし、一人ひとりの生活のペースを大事にしている。		決して強要や、制止する事のないように努めていく。
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>				
53	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	美容院は本人の希望で行きつけの店や近くの店など選んでもらっている。		家族にも協力してもらい、服や小物、靴の好みなどを把握し、時には家族と一緒に買物に行ってもらうことも考えていく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立も出来るだけ本人に決めてもらうよう努め、味付けや盛り付け等もしてもらっている。片付けは利用者さんがしている。		出来るだけ食べたい物を食べてもらうように支援していく。一人ひとりが異なったメニューになっても対応できる様に努力する。
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒、タバコについては自由に行っている。おやつも出来るだけ選んでもらうようにしている。		コーヒーやお茶などの飲み物や冷蔵庫の中のおやつなど自分で取って飲んだり食べたり出来る様に支援する。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	本人の態度から排泄の兆しが見られたらさりげなく誘導するなどして、気持ちよく排泄できるよう支援している。		定時誘導は出来るだけ行わず、本人が自分の意思で排泄が出来る様支援していく。
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は特に決めておらず、いつでも入れるようにしている。また、そのことを利用者にも知らせている。		入浴時間は特に決めておらず、いつでも入れるようにしている。また、そのことを利用者にも知らせている。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	朝だからといって無理に起したりせず、自然の睡眠を妨げないようにしている。また、昼寝も自由にしてもらっている。		朝だからといって無理に起したりせず、自然の睡眠を妨げないようにしている。また、昼寝も自由にしてもらっている。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事全般で出来る事はやってもらっている。本人が納得するまで途中で訂正したりせず見守るよう努めている。		一人ひとり違った楽しみや、気晴らしが出来るよう個人的に対応していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に 応じて、お金を所持したり使えるように支 援している	支払いは出来るだけ本人にしてもらっている。管 理できない場合でもその都度必要な金額を渡して 支払いをしてもらうようにしている。		支払いは出来るだけ本人にしてもらっている。管 理できない場合でもその都度必要な金額を渡して 支払いをしてもらうようにしている。
61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひと りのその日の希望にそって、戸外に出かけ られるよう支援している	本人の希望があれば外出できるようにしている。 また、いつでも外出できる事をつねに伝えてい る。		本人雄じ
62	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けな いところに、個別あるいは他の利用者や家 族とともに出かけられる機会をつくり、支 援している	行ってみたいところはどこなのかを日頃から聞く ようにし、希望がでたらその実現の為に利用者さ んと計画をたてるようにしている。		本人の自発的な外出がもっと多くなるような支援 をしていく
63	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をし たり、手紙のやり取りができるように支援を している	本人の希望で電話できる様にしている。年賀状や 暑中見舞い等手紙も書くようにしている。		もっと頻繁に手紙を書く機会を設けたい。家族だ けではなく小学生との文通等も考えていきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人 たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地 よく過ごせるよう工夫している	建物入り口の施錠は21：00までせず、それ以 降も連絡があれば来訪できるよう家族等には伝え てある。また来訪時は本人の希望で外出、居室、 居間など好きなところで過ごしてもらっている。		朋楽便りの配布先を増やして、朋楽の生活のよう すをより多くの人に知ってもらい、訪問してもら いやすくする。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指 定基準における禁止の対象となる具体的な 行為」を正しく理解しており、身体拘束を しないケアに取り組んでいる	身体拘束についての資料は常に見る事の出来る場 所に置いてあり、日々話し合いの中でも注意し ている。		定期的な研修を職員にしていくようにする。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室は本人が施錠する時を除き施錠はしていない。玄関は24時間、建物入り口も7：00～21：00は施錠はしていない。		居室は本人が施錠する時をのぞき施錠はしていない。玄関は24時間、建物入り口も7：00～21：00は施錠はしていない。
67 ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に利用者の動向には気を配り、人数確認をしている。		常に利用者の動向には気を配り、人数確認をしている。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	化粧品などの誤飲の可能性のあるものも、本人の能力に応じて居室に置いたり、預かったりしている。		化粧品などの誤飲の可能性のあるものも、本人の能力に応じて居室に置いたり、預かったりしている。
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急時のマニュアルを作成し、いつでも見られるところに掲示したり置いたりしている。また、事故があった時には詳しく検討し予防策を考えている。		避難訓練を昼間、夜間両方を想定して実施していく。また行方不明時のシミュレーションも行っていきたい。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時のマニュアルを作成し、見えるところに掲示している。		応急手当やAEDの使用方法についての研修を行う。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火事、地震時の計画は策定している。		避難訓練に近隣の人々の参加を呼びかける。また災害時の協定を近隣のホテルや神社等と結んでいく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	家族会で考えられるリスクについては説明し、リスクを防ぐ為に生活を抑制する事がないように支援して行く事を伝えている。		講習会でもリスクマネジメントの項目を儲け、家族にも参加を呼びかけている。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝の引継ぎやミニミーティング時に体調の変化があれば報告し、体温や血圧の測定、看護師や医師への連絡をして判断をあおいでいる。		朝の引継ぎやミニミーティング時に体調の変化があれば報告し、体温や血圧の測定、看護師や医師への連絡をして判断をあおいでいる。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は保管してあり、常に確認ができるようにしている。服薬は職員が見守りで確実に服用できているをチェックしている。また、薬が増えたり変更になった時は他にかかっている医師にも報告している。		薬の情報は保管してあり、常に確認ができるようにしている。服薬は職員が見守りで確実に服用できているをチェックしている。また、薬が増えたり変更になった時は他にかかっている医師にも報告している。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給は充分し、できるだけ日中動いてもらうようにしている。		水分補給は充分し、できるだけ日中動いてもらうようにしている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の歯磨きは本人が納得してできるような声かけをして、本人が能動的にするようにしている。		食後の歯磨きは本人が納得してできるような声かけをして、本人が能動的にするようにしている。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量は常に把握し、適切な量を食べてもらうようにしている。		おやつや食事の量等考えて、本人の不満にならないように適切な量を食べてもらうようにしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症の予防マニュアルを作成し、いつでも見られるところに置いてある。		感染症の予防マニュアルを作成し、いつでも見られるところに置いてある。また、職員は常にそれを見て予防に心がけている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具の洗浄、消毒には気を使っている。食材は出来るだけ使いきる様に努め、冷蔵庫内で長期間置かないようにしている。		調理器具の洗浄、消毒には気を使っている。食材は出来るだけ使いきる様に努め、冷蔵庫内で長期間置かないようにしている。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は格子戸にしてあり、普通のドアの密閉されたイメージを与えないようにしている。また玄関には花や写真を飾ってあり親しみやすい雰囲気作りを心がけている。		建物入り口から朋楽玄関までの導線をより分かりやすくする掲示を考える。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や飾りを利用してより居心地のよい空間作りに努めている。また全室光が入っている。		季節の花や飾りを利用してより居心地のよい空間作りに努めている。また全室光が入っている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファを置いたり、テレビの前でゆっくり座れるような工夫をしている。		よりひとりでもくつろげるような空間作りを検討する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	居室には本人が前から使っていた家具をもっ てきて使ってもらっている。		居室には本人が前から使っていた家具をもっ てきて使ってもらっている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	換気、消臭に努め居室の換気についても本人が納 得できるような声かけで本人が能動的にするよ うに努めている。		換気、消臭に努め居室の換気についても本人が納 得できるような声かけで本人が能動的にするよ うに努めている。
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	足を引っかけたり、つまづいたりするよう な障害物は置かないようにし、階段の上り下り等は職員 も環境の一部となって支援している。		足を引っかけたり、つまづいたりするよう な障害物は置かないようにし、階段の上り下り等は職員 も環境の一部となって支援している。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	分からないことがあった時には本人の尊 厳を損なわないように声をかけ、混乱しないよう努めてい る。また失敗した場合でもそれは問題ではないよ うにうまく声をかけ安心してもらうような支援を している。		分からないことがあった時には本人の尊 厳を損なわないように声をかけ、混乱しないよう努めてい る。また失敗した場合でもそれは問題ではないよ うにうまく声をかけ安心してもらうような支援を している。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	屋上へは職員と一緒に上がり洗濯物を干したり日 向ぼっこをしたりしている。		個人の希望に合わせたより有効な利用方法を検討 する。

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない  よりいきいきとした暮らしに向けて、もっと思いや願いがあるのではないかという意識を持って日々の支援をしていく
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない  あまり表情がでない利用者に対して、個別に支援していきいきとした生活造りに取り組む
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない  こちらから出かけていく取り組みを始めたので、それを通じて訪ねて来てくれる様な関係作りをしていく

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない  積極的に地域に出て行く取り組みを始めたので、つながりを広げて行きたい。
98	職員は、生き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない  もっとやりたい事や希望の実現が出来る環境づくりや支援に取り組んでいく
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない  家族にも今以上にいきいきとした生活ぶりを見てもらいたいと考えている

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

本人の出来る事は出来るだけしてもらおう。そのためには本人がどこまで出来るのかを細かく分析し、しっかりと把握した上で出来ない事だけを支援していく。また、本人の希望は可能な限り実現するために努力していく。本人の希望を表しやすくするために選択肢を示したり、言葉だけではなく写真や実物を利用するなどさまざまな工夫をしている。

自分で決めたものを作って食べたり、決めた場所に自由に出かけたりと当たり前の生活がいきいきと出来る様な支援をしていく。